やすらぎ

私はあの人に
なれないけど
あの人も
私になれない

春季彼岸会法要　三月二十日（金）午後一時三十分厳修　詳細は2頁
報恩講報告　詳細は3頁
本山上山報告　詳細は4頁
子供会報告　詳細は5頁

報恩講にて 役員さんと

光照寺寺報

発行所
真宗大谷派　弘興山
宗教法人光照寺
〒331-0821
さいたま市北区別所町102-2
電話：048-651-2781㈹
FAX：048-651-2753
E-mail
yasuragi@beige.ocn.ne.jp
ホームページ
http://koshoji76.jp
発行人 住職 池田孝三郎

御影堂門上の釋迦三尊像

御影堂

身近な人の死に遭うということはとても辛く悲しいことです。やり場のない気持ちをどうぶつけていけばよいのかも分からなくなります。亡き方を諸仏として仰げているかは残された私たち生きている人へ問われていることです。

ある記事に書いてありましたが、病院に末期状態の知人を見舞いに行った方が、「浄土で会いましょう」と言ったら、知人が「あなたは本当に浄土に行けるのか」と問い返したというのです。すごい応答の場面だと思いました。浄土で会うということを頷いているかが問われているのです。もっと言えば、浄土を願って生きているかが問われています。浄土という言葉だけだと様々にイメージしてしまいますが、真実報土、無量光明土という親鸞聖人が指し示す世界をこの今生において頷かせていただきながら、空しくない人生を全うしていく歩みが仏の大きな願いだと感じております。

お彼岸と前住職の一周忌を兼ねて厳修します。

亡き人を偲びつつご一緒にお念仏しましょう。

住職（釋徹照）

彼岸法要

春季彼岸会法要 兼 前住職一周忌法要

- 3月20日（金）春分の日
- 午後1時30分～3時まで（1時受付）
- 光照寺本堂にて
- 勤行・法話

※準備の都合上、出席人数をご連絡下さい。預骨されている方は率先してお参り下さい。
ご参詣をお待ちしております。

彼岸参り

- 3月17日（火）～23日（月）の期間（但し20日は除く）

※ご希望の日にちをお知らせ下さい。時間につきましてはこちらで調整させて頂きます。ご自宅か当寺のいずれかで読経いたします。

ひとくち 歎異抄

羅漢：「弥陀の本願はまことであるのか」「釈尊の説教、虚言（きょごん）なるべからず。」第２章

「愚身（ぐしん）の信心におきてはかくのごとし。」「念仏をとりて信じたてまつらんとも、また、すてんとも、面々（めんめん）の御（おん）はからいなりと云々」

川越喜多院の五百羅漢

報恩講報告

昨年、十月二十七日（日）、報恩講兼住職継承奉告法要を関係各位のご協力のもと多数のご参加を頂き、無事に勤修できましたことをここにご報告申し上げます。当日は、天気に恵まれ、秋の過ごしやすい一日となり、南の聖地にて記念の集合写真が撮れましたこと大変嬉しく感じました。

法要に先立ちまして、門徒役員、護持会役員の皆様から玄関幕を寄贈頂き、朝九時三十分に幕を一緒に張りまして記念写真を撮りました。役員の皆様には寄贈頂き感謝申し上げます。

ご来賓の照誠寺住職、また、総代兼護持会会長の平山正三氏より、お寺の護持会発展と住職の歩みに期待と願いがあることをお話し下さり、心温まると同時に身の引き締まる思いを抱きました。

ご講師の本明義樹先生（真宗大谷派聖教編纂室主任編纂研究員・京都教区専光寺住職）からは「悲喜の涙を抑えて」という講題で、ご自身の父親の逝去のときのお話を交えて、親鸞聖人のお言葉を引かれ、悲しみを超えて、私たちは仏から願われている存在であることの確かめを丁寧にお話し下さりました。

阿弥陀様、親鸞聖人、ご門徒さまと有縁の皆様に代替わりのご奉告をさせて頂くことで、いよいよ本願念仏のみ教えを頂いていく歩みをしなくてはという、身が引き締まる思いでおります。浅学非才でございますが、皆様からお育てを頂きながら、仏法弘まれかし、念仏よ興れ、という、光照寺の旗印を大切に継承し、仏法弘通、念仏興隆、私にできることに尽力して参りますので、これからも末永く宜しくお願い申し上げます。

南の聖地にて

平山総代兼護持会会長

来賓挨拶 照誠寺住職

寄贈の玄関幕の前で 役員さんと

住職

本明先生

勤行

本山上山報告

昨年、十二月十一日（水）～十二日（木）の一泊で、光照寺奉仕団（京都本山上山）及び帰敬式（生前法名授与）と題して、本山に上山して参りました。

当日は、十名で上山し、内、五名の方々が帰敬式を受式して下さりました。

リニューアルされた同朋会館は綺麗になり、コーヒーも飲み放題でとても快適に宿泊することができました。

教導は日豊教区の津垣慶哉先生、補導は、能登教区の山本良平さんにご教示頂きました。

先生からは、「なぜ真宗なのか？」という問いかけから始まって、「生活者の中の仏教」というのが真宗、というお話があり、多岐にわたり優しくご講義頂きました。

補導さんからお内仏のお話を頂き、改めてお内仏が身近なものとしていかに大切かを感じました。

帰敬式を受式された五名の皆様は、緊張もされていましたが、感動もひとしおだったということで、貴重な体験をされました。仏弟子として歩んでいくことは大きな安心感の中に抱かれていることを感じながらこれからの人生を歩んでいくことになります。迷ったり、くじけそうになっても手を合わせ、念仏していくことで歩んでいける力を賜る、その一歩を踏み出した瞬間に立ち会えたことに感動致しました。他の五名の参加者は自分のときの感動を再確認しながら、これまでの仏弟子の歩みを振り返る機会を与えられたことに感慨深いものを感じました。

あっという間の上山でした。また是非参拝したいと思わせる独特な空間でした。京都へ行かれた際は是非ご参拝をお勧めします。

藤原総代感話

新仏弟子の皆様

補導さんの説明

帰敬式受式

記念撮影

座談

御影堂門上の釋迦三尊像

鈴の音

信心（しんじん）というものは若返るものである。死ぬ準備ではない。

安田理深

（『信仰についての対話Ⅰ』より）

真の依り処

死者はどこにいらっしゃるのでしょうか。念佛者は死は新たな生であると、極楽に生まれた人ですと、そしてこの衆生に縁ある者を導びこうと菩薩になって教化して下さっておられますと。それは生れて来たこの人生に生きる喜びを見つけるようにと。私は法を聞かして頂きましても何も変る事等出来ない私です。それを弥陀は悲しんでおられます。十一月本山の報恩講に行かせて頂きました。お話の中で池田勇諦先生は真実は色形もなく道理だけであると、信心がさだまる一定になれるようにと申されました。本山のテーマである、人と生まれたことの意味をたずねていこう。生まれた意義と生きる喜びを見つけよう。です。この深い言葉をたずねてどこ〳〵までも聴聞させて頂く以外ありません。南無阿弥陀佛

岡田ノリ子

子供会報告

子ども会「ポニークラブ」〝子ども報恩講〟

大塚　陽子

冷たい風の吹く朝、玄関先でのたくさんのシャボン玉のお出迎え、十二月二十四日（火）に大人七名、小人六名の参加により、勤行後、報恩講についてのお話をし、前坊守あいさつの後、自己紹介をし、紙しばい〝いただきます〟という食育のお話や、〝ピーマンを探せ〟という絵本を読みました。その後お斉にカレーとかぼちゃサラダと皆んなで生クリームと果物をトッピングした手作りケーキを頂きました。食後は、脳トレのまちがい探しの絵を真剣に取りくみ、替え歌を歌ったり、プレゼント交換をしたり、卓球もしました。大間さんが作ってくれたわたあめは子ども達に好評でした。もりだくさんな内容で、一日楽しく過ごしました。

次回は四月三日（金）です。お待ちしております。

集合写真

坊守の紙しばい

プレゼント交換

勤行

前坊守の紙しばい

卓球

カレーおいしい

脳トレ

照れるなあ

わたあめ好き

おいしいな

ピーマンおもしろい

お知らせ

―寺務所より―

◆法要のご案内

●春季彼岸会法要兼前住職一周忌法要

三月二十日（金）、午後一時三十分より厳修

◆光照寺護持会

会員の方は護持会費の納入をお願い致します。又、随時新会員受付中。別紙案内をご覧下さい。総会は六月二十日。

◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会

講師は延塚知道先生（大谷大学名誉教授）、二〇二〇年三月十一日、五月八日、七月七日、午後一時半～四時半。『教行信証』を学んでいます。

●大経の会

三月二十九日、四月二十九日、五月三十一日、午前十時～午後三時。講師は佐々木師と住職の担当月別。『正信偈讃仰』（七）を学んでいます。お弁当持参して下さい。。

●我聞の会

三月六日、四月十六日、五月十四日、午後二時～四時。「歎異抄」を学んでいます。講師は住職。

●微風学舎

三月二十三日、四月二十一日、五月二十六日、午後七時～九時。講師は住職。「高僧和讃講義（一）」（延塚知道著）を学んでいます。

◆子供会

四月三日（金）花まつりです。

◆お願い

ご自宅で法事の際は駐車場をご用意下さい。

住所・電話番号変更の際は必ずご連絡下さい。宜しくお願いします。

俳句・川柳

吉澤　光昭

初松籟御幣そよぎし鳥居かな
吾子と食む由来おしへし節料理
奥津城花活きいきと松の内
にっこりと故なくのぞくお年玉
鰐口の音に満ちたる淑気かな

山田　恒

生きざまに一つ加えた変化球
赤トンボ音譜が秋を舞っている

短歌（詩）

山田　恒

一人酌む秋の夜長の静寂に
駅のピアノからワルツ流れる
思惑が心の底でもがいてる
未だ決められぬ八十の道のり

佐々木　玄吾

日野坂をノート求めて往復す
今日のノルマはこれにて足れり
新しきノートひろげて本を読む
講義の準備楽しくはじむ

赤秀　品枝

人生はなるようになると言うものの
不安半分安心半分
念仏の届かぬ道のもどかしさ
愚痴の電話になんと答えん

篠原　潤子

ひざ腰にベルトをつけて紙オムツ
都心高輪年賀のバイト
バイト後太腿の筋つれた夜
やさしくさする夫の手のある
パーキンソン病む伯母とＴＥＬ紙オムツ
ＭよりＳとサイズの伝授

釈尼　邦照

初日の出並びしおがむわが夫と
今朝は一人でふととなり見る
キラキラとまばゆい光に手をかざし
浄土の夫に思いをはせる

釈尼　陽照

わが父の諸仏となりし真夜中の
眼にも小雨病院を出る
聖苑から戻るるバスの道すがら
桜堤の悲しみの華

花と時計とパン
山田　邦興　画

梵鐘

開基ご住職様が浄土にお還りになられ、新住職様が継承された令和元年でした。十二月新住職様と上山し新仏弟子も誕生しました。思い返せば帰敬式を受けたのは平成十二年、長いことお育て頂きました。当時の思いを綴ったものを読みますと今の自分とほとんど変わっていません。むしろ歳を重ねることで傲慢になっています。受式当時に頂いた「仏法のことは、いくたびも、いくたびも人にとい、極め申すべき事なる由、仰せられ候う。」という蓮如上人の言葉を糧に分からなければ考え、調べ、善知識に問う。積極的に如来に向きあうことを先代のご住職様に教えて頂きました。

釈尼雅亮